

地域づくりの昔と今 これから…



永明地区地域づくり協議会 深谷 茂さん

この大会は、平成28年11月11日（金）～13日（日）の3日間熊本県内11分科会場と全体会場で開催されました。参加者は総勢約370名でした。

私は第1分科会の熊本市に参加しました。参加者は、次期35回大会開催予定の香川県、第36回開催予定の福島県、群馬県、石川県、奈良県、鳥取県、長崎県、沖縄県の方々と地元協力者など約50人でした。

受付手続き後、JR線で市内川尻駅まで移動、当地の地域づくりの紹介を受け、まちづくりの心がけを学びました。

ここでの紹介で、同業者（生菓子製造、販売のお店）同士の競争をやめて協業を旨とし、相互信頼関係を構築しながら共存共栄をはかり順調に推移している様子が紹介されました。このきっかけは、地域住民の減少とお客様の再来訪が大きく減少傾向であることに危機感を感じたためと解説していました。この地域に「老人ゾーン」を設定、看板を立て啓発に



努めている様子も見えました。

午後の後半、バスで市内中心地に移動し、「玄宅寺」の本堂に座して研修会に入りました。参加者の自己紹介後、グループごとに現状報告をし、ワークショップで相互学習をしたことは有意義でした。ここで「地域づくり啓発活動について地域住民の皆さんに意識の中に浸透していく手法を求めていくことが課題でしょう」と提言しておきました。

2日目宿舎の共済会館を出発し、有名な水前寺公園内にある「古今伝授の間」で水前寺のまちづくりについて講話を聞き学習した後、1車両貸し切りの「市電」に乗車して市内で歴史のある、震災にも耐えた料亭「喜楽」で昼食を頂き、分科会のまとめを済ませた後、全体会場のある山鹿市に移動しました。

全体交流会では、大変賑やかな雰囲気で大いに語り、盛り上がりました。会長の挨拶に続き来賓として山鹿市長、総務省の審議官から祝辞と激励がありました。会場になりまし



た「天聴の蔵」は由緒ある酒蔵で歴史を感じました。

翌日の全体会は、近くの「八千代座」を会場にして開催。この会場は、明治43年12月の開場以来今日まで続く純日本建築の素晴らしい『芝居小屋』で、地域の皆さんに愛されているようです。この立派な文化財としての建物も、維持するために展開した「一人瓦一枚運動」に協力いただいた多くの市民のおかげですと市長さんが仰っていました。おかげで日本一流の歌舞伎役者まで上演に会場されているそうです。

全体会の各分科会の研修内容報告後に「熊

本地震の事例報告」があり、研修交流会は閉幕になりました。

貴重な機会に参加でき、各地域の様子をつぶさに学習できたことに感謝します。



ありのままを生かした地域づくり

～世界文化遺産三角西港と地域が主役：フットパス&Walkers are Welcome～



前橋地域づくり連絡会 真下 靖さん

熊本出発の日、関東は冷え込み雨の朝、九州熊本に着くと晴天の空、分科会担当役員の指示待ちでした。分科会リーダーが迎えに来て、車に乗り込み話をすると、県議をしているとの事、会場まで遠回りをして地震の災害状況を見せて頂きました。

参加した分科会は11ある中の第2分科会。宇城を会場とした、ありのままを生かした地域づくり『フットパス』。フットパスとはイギリスが発祥で、森林や田園地帯、古い町並みなど、地域に残るありのままの風景を楽しみながら歩く事が出来る小径のこと。

バス移動しながら、全国から集まった人々と懇親も兼ねて世界遺産の三角西港へ。港湾を説明して頂きながら散策。またバスに乗り

移動、台風高潮で大きな被害を受けた松合、白壁土蔵群などを見学しました。

日も暮れる頃、一泊目の宿となる、さまたんロッジに到着。風呂に入る間もなく、食の文化祭へと突入、そのまま夜なべ談義へと移りました。

